

お釈迦さまの十大弟子 迦葉尊者

平成24年4月第3週放送

お釈迦さまの代表的な十人の弟子を十大弟子と呼びます。その一人、迦葉尊者のお話です。

迦葉尊者は「頭陀行第一」といわれた方です。頭陀行とは、衣食住などに対する執着を捨てて、厳格で簡素な生活を送ることです。

たとえば、ボロ布で作った衣を着なければならないという行や、毎日托鉢をして歩き、布施されたものを一日一食だけ摂って生活するという行など、当時でも大変厳しい修行でした。迦葉尊者は出家をしてから生涯を終えるまで、この頭陀行を実践し続けました。

迦葉尊者の本名はピッパリといい、裕福なバラモンの家に生まれました。幼い頃から出家して修行をしたいという願いをいただいていたのですが、家族の強い勧めによって、ある女性と結婚します。しかし、その女性もまた、出家を願っていたのです。

月日は流れ、それぞれの親も亡くなりました。二人でよく相談の上、同時に出家をし、後の再会を誓って、別々の修行の道を歩んでいったと伝えられています。

迦葉尊者は、修行の途中でお釈迦さまに出会い、弟子となって教えに従い熱心に修行し、八日目にしてさとりを開いたといわれています。また、後に尼僧教団ができると、妻であった女性もお釈迦さまの教えに従い、弟子となりました。

お釈迦さまから迦葉尊者へ仏法の伝授を示したのが、「拈華微笑」というお話です。お釈迦さまが説法をされていた霊鷲山において、ある時、何も語らずに一本の華をつまみひねられて人々に示しました。その時、迦葉尊者ただ一人だけが、その意味を理解してにっこりと微笑みました。

後に、お釈迦さまが亡くなると、迦葉尊者は五百人の優れた弟子を集めて、お釈迦さまの説かれた教えの編集会議である「第一結集」を議長として行い、その教えを後代にのこされたのです。

迦葉尊者は、自分に厳しい修行者でした。生涯にわたって頭陀行に徹し、修行僧たちにその身をもって修行のあり方を示されました。だからこそ、お釈迦さまや修行仲間信頼され、お釈迦さまの後を継ぎ、仏教教団の指導者となられたのでしょう。

— 終 —